

# 富山県経済・文化長期ビジョン 青年部会 意見とりまとめ

平成28年4月12日

## 1 議論の経過

### <第1回青年部会 11月9日>

- ビジョンの論点に基づき、富山県の望ましい将来像とそのため今から取り組むべき方策等について各委員一人ひとりから意見発表(キックオフ)

### <合同分科会 12月22日>

- 富山の未来を考えるため、現在の富山県が抱える不安要素、課題について議論(身近な心配事、その原因、このまま何もしないと将来どうなるか) (別添1)

### <第2回青年部会 1月15日>

- 合同分科会の議論を踏まえて、改めて将来の富山県の目指すべき将来像をイメージしながら、「採るべき具体的な行動」を各委員から提案。
- 将来予測されるメガトレンドが、富山県の将来にどのような影響をもたらすかについての仮説(別添2)を例示。

### <第3回青年部会 3月4日>

- ビジョン策定に当たって、将来予測のためのエビデンス(人口の変化、技術革新の進展、環境問題、グローバル化、北陸新幹線の大阪開業 など)を確認。
- 第2回部会で各委員から提案のあった取組みを、経済、文化、人づくりを縦軸に、三つのキーワード(横軸)を抽出し、9つのカテゴリーに分類整理。(別添3)
- 幹事等から提案された「長期ビジョンストーリー」(個人の30年後のありたい姿とそれを実現するための施策・方向性)をもとに、各委員と意見交換。(別添4)

## 2 基本的考え方

- 20年、30年先がどうなっているか、「過去の延長線上」に将来のビジョンを描くのではなく、ありたい富山県の姿を描き、考察することが重要ではないか。
- そのためには、人口減少や第4次産業革命の到来、地球環境問題、グローバル化（フラット化）の進展など、将来を大きく左右する変化を予測する必要がある。
- これらのエビデンスをもとに、現在の課題に対処療法的に対応することと同時に、すぐに芽が出なくても、予測される未来社会を富山県の将来にカスタマイズして取るべき方策を検討する。  
  
そこから将来につながるシナリオを見定め、富山発の日本、世界の社会的課題の解決につなげていくことが重要ではないか。
- 我々が後期高齢者になる時、我々の子供たちが親世代になっている時代を、目を細めて予測し、若者らしく、あえて制約をポジティブに捉えなおして、ふるさと富山県の経済、文化、人づくりに関する将来像と取り組むべき展開方向を提案する。

## 3 富山県の20年、30年先の将来像

- これまでの青年部会では、経済、文化、人づくりを中心テーマに議論を行ってきた。この3つのテーマを縦軸として捉え、議論から抽出したキーワード(横軸)を、「富山県の20年先、30年先の将来像」として提案する。
- 20年先、30年先の将来像の実現に向けて、富山県の採るべき方針・対策を展開方向については、別添のとおり提案する。なお、具体的な施策レベルについては県当局に委ねることとする。

### 富山県の20年先、30年先の3つの将来像

- I 新たな価値(経済力、文化力、教育力)を創造し続ける、と同時に、守るべきものが守られている(あるものを活かす)社会
- II 県民生活(経済、文化、人づくり)の中に「グローバルとローカル」が融合することで新たな魅力がデザインされ、国内外から人や企業が集積している社会
- III 個(地域)の力が、経済的にも文化的にも研磨され、ダイバーシティ(多様性・異質性)を尊重する心豊かな県民がふるさとを支え、経済と文化が響きあい共生している社会

## 4 将来像を実現するための「採るべき展開方向」

### I 新たな価値創造

- IoT等を活用した県内中小企業によるモノづくりネットワークの構築
- 伝統文化・伝統工芸の継承とクリエイティブ産業および人材の集積の促進
- 未来社会の労働市場において価値が認められる能力開発、教育体系の確立
- ... ..

Core Project

### II グローバルとローカルの融合

- 打錠機の開発・海外輸出などアジアトップの「医薬品製造都市」の実現
- 県デザインセンターの強化による「クール富山」のグローバル発信
- ふるさと教育とグローバル教育を両輪とした富山型の人材育成
- ... ..

Core Project

### III 個(地域)の力の磨き上げ

- 生産年齢人口の再定義による生涯現役社会の実現、質の高い職業人材の確保
- 若者や女性をターゲットとした文化芸術の魅力発信、文化意識の醸成
- 社会的貢献に応じた「ソーシャルキャピタルポイント制」の導入
- ... ..

Core Project

## 5 おわりに

○ 我々としては、今回の「提案」を「提案」のまま終わらせるのではなく、県が定める長期ビジョンの実現に向けて、一人一人がしっかりフォローアップしていく責務を担いたいと考えている。

○ 青年部会として長期ビジョンの策定に関与し、改めて富山県の先人たちが強い危機意識を元に、恵まれない環境を克服し、全国トップクラスの暮らしやすさを実現してきたことを実感した。

○ 「富山売薬とドラえもん」、この二つが代表するように、富山県人の持つ特異性を最大限に活かせば、時代を越え、国境をも越えた普遍性を生み出すこともできる。長期ビジョンが富山県人の正しい危機意識とチャレンジ精神を喚起し、世界に通じる新たな価値を創り出すことを念願する。

㈱ロボテック	飯田 哲弘
㈱富山メディアワーク	五十嵐 亮
㈱内山精工	内山 彰博
㈱ビーライン	大坪 悟
高岡市農業協同組合	大坪 洋介
藤吉	大野 慎太郎
㈱富山第一銀行	大屋 雅嗣
㈱不二越	金岡 智子
黒川邦楽院	黒川 真理
㈱石金精機	清水 克洋
㈱羽黒	高下 峰則
富山大学芸術文化学部	高島 圭史
㈱北陸銀行	高島 千絵
㈱高田製作所	高田 晃一
YKK㈱	田中 さゆり
㈱北陸銀行	田村 朋之
長岡工業㈱	長岡 伸剛
北陸電力㈱	中林 研一
北陸電力㈱	新鞍 佳奈
㈱野尻塗装店	野尻 晴一
Le Grand Beauty Salon	野村 和歌子
㈱アブリコット あんず薬局	濱角 志信
針本和也社会保険労務士事務所	針本 和也
北陸ココ・コーラボトリング㈱	盤若 洋平
㈱アポケアとやま	藤井 大輔
㈱アグリライズ南保	藤澤 ちひろ
㈱松井機業	松井 紀子
富山信用金庫	松本 綾子
㈱インテック	向井 真吾
㈱エムダイヤ	森 弘吉

富山県経済・文化長期ビジョン懇話会  
青年部会合同分科会

議事概要（グラフィックファシリテーション）

テーマ

「富山は何となく安泰だと思っていない？」

平成27年12月22日

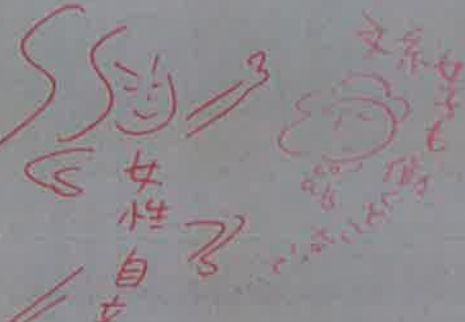


このまま.ほっとくと30年後どうなる



生活が始まる必要?!!

県外へ  
東京へ 世界へ



30年後

お世話も  
してないのに  
介護って...

介護必要になる人  
1.4倍

この先.富山が...  
支えてくれる人  
1200人 不足!!

結婚しない男子  
理解...  
あは...

確実に  
人口減少...

6軒に1軒が空き家  
生産人口 2/3



富山には  
何も無いから

yumi

2015/2/22

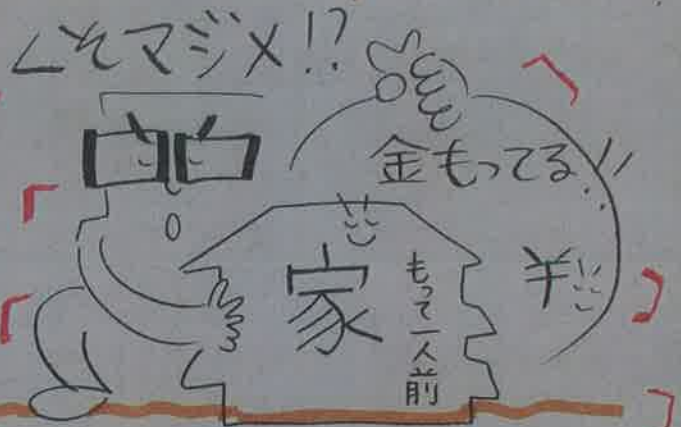
アイスブレイク

富山の人って...

県外の人から見たら...

新潟って  
どういうところか  
よわがさん

カタブツ



関東  
ちがう?

ホスター-貼ってもえませんか

高岡

あれ??  
京都みたい

鉛色の空!!

南砺の人  
人がいから  
A2さんよろい!!

南砺  
砺波



あんなに  
いい人!!

しまの  
見るとか!!

白黒ハッキリ!!

こはり!!



2015/2/22

yumi

20



	経済	文化	人づくり
<b>人口の変化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産年齢人口の減少により、経済活動における生産性の向上が求められる</li> <li>○生産年齢人口(15歳～65歳)の再定義が必要となる。</li> <li>○労働人口減少に伴う、女性・高齢者就労促進の重要性が増す(ロボットスーツを着用し、高齢者の重作業が可能となる(介護、農業、サービス業))</li> <li>○超高齢化社会の到来により、新たな健康長寿産業を創出するチャンスが拡大する。</li> <li>○人口爆発の途上国支援とさせた新しいビジネスモデルの要請が高まる</li> <li>○人口減少に伴う無居住地区を活用した新たな県土再生方策の構築が求められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちへ、本物の文化活動への接触機会が多く与えられる</li> <li>○高齢者のセカンドライフとして、文化活動への必要性が高まる</li> <li>○地域文化、地域資源の継承が重要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識偏重教育からイノベーションを生み出す教育が求められる</li> <li>○児童生徒の減少に伴う小中高校の在り方の見直しが必要となる</li> <li>○女性・高齢者を対象とした生涯教育が重要となる</li> <li>○地域医療・介護の効率化に対応した人材育成が求められる</li> <li>○IT教育の拡充、情報分析力の向上が求められる</li> <li>○アジア留学生の受入が増加する</li> </ul>
<b>劇的な技術革新の進展</b>  <b>環境問題</b>  <b>首都圏直下地震の確率増大</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○IoTの進展、ロボテックス、再生医療、省エネ、医療機器などの革新技術により、本県ものづくり産業の新産業創造の可能性が広がる</li> <li>○ビックデータの活用により最適化が進み、起業のチャンスが生まれる</li> <li>○アジア途上国の環境問題に貢献するため、県内廃棄物処理技術が必要とされる</li> <li>○地球温暖化により、熱帯性感染症など新たな病気への対応が必要となる(富山化学工業)</li> <li>○農林漁業のICT化や生産性向上により、新たな雇用が生まれる</li> <li>○日本海メタンハイドレードの活用が期待される</li> <li>○農林産物を使用した医薬品・医療薬新素材の実用化(薬用植物など)が期待される</li> <li>○バイオ技術の深化により、寒冷地に新たな作物の農地が開拓される</li> <li>○危機管理や新幹線開業の観点から、首都圏からの企業立地が進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民生活の利便性が向上し、生活の質が向上することで、文化への意識が高まる</li> <li>○ICT技術などを取り込み、教育現場と文化施設をネットワーク化するなどして、クリエイティブな場づくりへの取組みが可能となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新産業創出や文化施設の活用を支援するプラットフォームの形成が重要となる</li> <li>○サバティカル制度などの導入により異分野交流、専門分野以外の交流が一般化する</li> <li>○国内外からクリエイティブクラスの人材誘致が求められる</li> <li>○健康寿命の延伸により、高齢者の活躍が期待される</li> <li>○災害に強い、自然豊かな富山県の価値が高まり、移住が促進される。</li> <li>○コンピューターの仕事を奪われないためのリカレント教育が求められる</li> </ul>
<b>グローバル化(フラット化)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○TPPなど産業障壁がフラット化し、県内製品の輸出が促進される。</li> <li>○数値化できるような性質・品質の向上だけでなく、消費者に感動、物語などの付加価値が必要とされる。(スイスのようなものづくり産業)</li> <li>○多言語翻訳機の普及など、「言葉の壁」が克服される(観光産業の後押し)</li> <li>○北極海航路の構築など海上輸送のスピード化が進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自国文化への理解、リベラルアーツの必要性が高まる</li> <li>○アジアを中心に日本文化に対する関心が高まる</li> <li>○地域間競争がますます激化し、ローカルブランディングの重要性が増す(本県の強みを国内外に発信)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○愛郷心向上とグローバル教育を併せ持った人材育成が求められる</li> <li>○留学機会の増加が求められる</li> <li>○アジア時代に向けて経済、文化、人づくりなど地方のグローバル化を総合的に取り組むための指針づくりが求められる。</li> </ul>
<b>新幹線開業(新黄金ルート)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新ゴールデンルートが確立され、富山県へのヒト、モノの流動性が飛躍的に高まる</li> <li>○新幹線による貨物列車運行が可能となる</li> <li>○地方観光業が発展し、新たな雇用を生む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○富山の文化に興味をもった定住者(外国人)が増加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○移動時間短縮による生産性向上(東京・大阪双方の時間短縮)</li> <li>○車の全自動運転が促進され、車社会の在り方が変わる</li> </ul>



	経済	文化	人づくり
新たな価値創造	<p><b>IoT・ICTの活用、生産性向上、課題解決、デザイン強化、ベンチャー支援、販路開拓、くすり集積、中小企業サポート体制、農林水産業成長産業化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり県の競争力強化、生産性向上のためのIoT導入・活用の支援</li> <li>県内事業者への発注金額によるインセンティブ(減税等)の検討</li> <li>モノづくり中小企業ネットワーク構築のための支援</li> <li>自然災害が少ない県をアピールする防災・減災技術の研究開発推進</li> <li>工業、商業デザインの推進(デザインセンターの機能拡充、新美術館連携)</li> <li>WiFiの整備、VCの構築によるITベンチャーの集積支援(とやまシリコンバレー)</li> <li>地域ネットワーク活性および効率化、ITC化へのベンチャー起業支援</li> <li>中小企業のM&amp;Aを促進するための取組み(フィーの一部助成)</li> <li>社内ベンチャーの育成・独立を後押しする仕組みの構築</li> <li>ベンチャー投資育成機関の設立</li> <li>ものづくりの強みを活かしたOEM生産受注見本市の全国開催、PR</li> <li>海外医薬品製造業の集積を図るための企業立地助成制度の創設</li> <li>くすり集積に向けた産官学の連携、政府系医薬品関連機関の継続的誘致</li> <li>打錠機をはじめとした医薬品製造用設備などをつくる企業の育成(くすりの一大城下町)</li> <li>県有跡地の提供や若者・女性が就労希望する企業の誘致</li> <li>企業立地・人口移住促進のための県有財産の積極的活用</li> <li>適時適切な中小企業支援情報の情報提供(商工会議所・商工会の役割)</li> <li>農林水産業の生産性向上(地産地消100%の県づくり、養殖技術、ICTを取り入れた施設園芸団地の整備など)</li> <li>空き家を活用した住環境市場の形成(自然環境やライフステージ)</li> <li>ICTを活用した克雪技術の推進</li> </ul>	<p><b>新たな文化創出、クリエイティブ産業・人材育成、地域文化の発掘・伝承、文化的な賑わい創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>癒しスポットの掘り起し・ブラッシュアップの推進</li> <li>クリエイター、映画映像、芸術関係者の地元人材の育成支援</li> <li>県民が伝統文化を身近に感じられる環境整備</li> <li>文化消滅可能性都市にならないための施策展開(風の盆、立山信仰、御車山をモデルケースに伝承保存)</li> <li>地域文化(地元愛)の振興・継承推進</li> <li>立山連峰、富山湾を活用した新たな魅力創出</li> <li>物理的に富山県にしかできないアトラクションの開発</li> <li>水循環食文化のブランド化(兼業農家率全国一位、水田率全国一位を支援する施策)</li> <li>「美術工芸(文化)王国富山」の魅力発信</li> <li>若者が魅力を感じる商業・娯楽施設の創出</li> <li>文化施設と商店街との連携(ギャラリー化、創作活動の場)</li> <li>集落を統一コンセプトによりリノベーションした「ムラ」の形成</li> <li>富山の神秘的な部分(立山連峰・立山信仰など)を音楽・文化に取り入れ</li> <li>五感(視覚(本物を知る)、味覚(食の富山)など)を育む富山の推進</li> </ul>	<p><b>創造性を育む人材、社会人基礎力、富山型キャリア教育、職業体験、IT教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発見、発明、創造といった知的活動につながる好奇心を刺激する人材育成のための施策展開</li> <li>閉鎖的にならない、オープンな考えを持てる人材の育成(ディベート/議論の取入れ)</li> <li>少子化への対応として、一定規模の児童・生徒数の確保などによる学習環境の維持、多様性を許容・尊重できる人づくり</li> <li>企業や社会が求める労働力や資質を明確にした企業や社会との人材マッチング</li> <li>富山県ならではのキャリア教育の推進、地元で働きたくなるマインドづくり(モノづくり教育、生徒が興味関心のある職種人を招いたブース、仕事体験などのフォーラム開催など)</li> <li>モノづくり人材育成事業</li> <li>富山の産業的強みを学び・活かす・結びつけるキャリア教育</li> <li>高校生1年生を対象とした県内職業体験の実施、児童教育での職業訓練の義務化</li> <li>WiFi環境の整備を踏まえたIT教育の充実(HP作成、アプリ開発など)</li> </ul>
グローバル&ローカル	<p><b>海外販路開拓、グローバル人材、システム輸出、経済文化交流、外国人雇用、訪日外国人受入、MICE誘致、ホテル誘致、留学生の受入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業海外販路拡大支援機関の設置(ジェットロと国際センターの連携)</li> <li>グローバル人材を求める企業とそれら人材とのマッチング機会の提供</li> <li>小水力などの省エネサブシステム技術の海外輸出</li> <li>青年を中心とした「青年経済文化訪問団」の派遣</li> <li>外国人雇用特区の設定(外国人の正社員化→人口増、文化交流)</li> <li>外国人のインターンシップ受入等による県内企業の海外展開促進</li> <li>リピート率の高いアジア圏をターゲットとした国別マーケティング</li> <li>外国人観光客の受入整備、外国人への耐性強化(多言語対応、二次交通、カード決済、空き家活用)</li> <li>外国人留学生の受入促進</li> <li>ヘルスケア型観光の推進</li> <li>G7環境大臣会合を契機としたMICE誘致のための外資系ホテルの誘致</li> <li>海外展開、グローバル人材育成、外国人観光誘客など富山県の総合的なグローバル戦略の検討</li> </ul>	<p><b>文化力発信、留学生活用、文化コンテンツの海外展開、文化イベントの開発、文化ツーリズム、ローカルブランディング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝統工芸の技と知の拠点整備による富山の文化力の発信</li> <li>伝統工芸・文化と若い人をつなぐ交流型コンテンツの推進</li> <li>移住者や外国人留学生を活用(アンバサダー)した文化力発信</li> <li>県内への移住促進につながる日本内外への文化的魅力発信</li> <li>文化コンテンツをパッケージ化した海外での売り込み戦略</li> <li>グローバル発信のためデザインセンター強化</li> <li>海外の超富裕層向けの文化ツーリズム等の開発、発信</li> <li>産業観光と伝統文化、自然、食文化を組み込んだツアー企画</li> <li>富山のおいしい食文化(全国初の鮭フェスタ)の発信</li> <li>海・山の地域資源を野外体験する修学旅行プランの作成・PR</li> <li>全国各地の伝統芸能を集めた「B-1グランプリ」の企画運営</li> <li>富山県をイメージしてもらうための国内外へのブランディング(例えば、健康、富山=宇宙 など)</li> <li>地場PRにおける統一ブランドの創造</li> <li>地元と一体となった海外観光客対応の体制構築</li> </ul>	<p><b>ふるさと教育と英語教育の融合、留学体験促進、郷土愛醸成、地元企業の情報提供促進、ライフプラン教育、偉人発掘</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル&amp;ローカルを特徴とした富山型カリキュラムの開発(ふるさと教育と英語教育の融合、富山の郷土資源を学ぶカリキュラムの強化)</li> <li>幼児からの徹底した英語教育(ネイティブな英語を話せる県)</li> <li>県内若者の留学派遣制度の推進</li> <li>県内学生や社会人が気軽に英語に親しめる仕組み(富山県の魅力を英語で伝える英語アプリの開発)</li> <li>県外進学後、富山へ戻った体験談の高校生への情報提供</li> <li>高校生に将来的な富山県の人口予想図を提示</li> <li>富山で働きたくなるドラマの自主制作を通じた全国PR</li> <li>小学校高学年による「ふるさと富山自慢大会」の開催</li> <li>夏休みの自由研究課題等のテーマに「ふるさと教育」を採用</li> <li>富山の偉人や地域文化を幼少期から教育できる仕組み</li> <li>富山ならではの内面教育・郷土愛醸成への積極的投資</li> <li>富山ゆかりのドラマ制作を通じた郷土愛の醸成</li> <li>先人が遺した著書、関連書の機会提供</li> <li>県民の誇りを醸成するための江戸時代以前の先人の発掘</li> </ul>
個々(地域)の力の磨き上げ	<p><b>ものづくり人材確保、高度専門人材、大学拡充、生産年齢の再定義、高齢者就労、シニア起業、女性再就職、女性理系学生確保、女性の働き方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりに従事する質的・量的な人材育成・確保</li> <li>薬学のトップクラス人材の集積(薬研、中央病院、県立大学など)</li> <li>認知症予防、予防医学薬学のスペシャリスト人材を県内大学・企業に集積</li> <li>県立大学の更なる学部拡充など魅力ある大学づくり</li> <li>子育て女性・高齢者の就労機会への対応</li> <li>高齢者就労、健康寿命延伸のための生産年齢の再定義【18歳から80歳へ】</li> <li>高齢者の生産性と消費力の維持のための制度構築(長寿と経済)</li> <li>高齢者就労促進のための環境整備、シニア層のための起業支援</li> <li>県内製造業との連携による女性理系学生の育成</li> <li>女性の労働力人口の引き上げによる潜在成長率の維持(女性就業機会のための第三次産業を誘致)</li> <li>ものづくり企業合同の女性限定就職セミナーによる労働力確保</li> <li>女性の管理職率が高い企業、女性再就職率が高い企業の優遇措置</li> <li>県内企業の女性や新卒採用PR経費の助成制度の創設</li> <li>子育てしやすい企業の認定企業のPR、活用</li> <li>仕事と子育てを両立する世帯への支援拡大、高校までの無償化</li> <li>全国トップクラスの子育て支援策を充実・PRして、他県からの人を呼び込む</li> <li>子育てにお金がかからない、働く場が充実していることを全国に呼び掛ける</li> </ul>	<p><b>芸術文化への接触機会の増加、文化施設と学校教育との融合、若者、女性の文化施設の利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の子供たちや文化留学生が集う芸術文化拠点の形成</li> <li>文化施設と若い世代をつなぐ共同学習プログラムの開発</li> <li>県内女性に対する文化施設の利用促進(女性視点の催事)</li> <li>文化施設と子育て施設のドッキング(文化・伝統に触れる絶対的回数の増加)</li> <li>全天候型の文化・スポーツ施設などの整備</li> </ul>	<p><b>地域単位でのケア、人と人との絆、ライフスタイル、空き家活用、ソーシャルキャピタルポイント制導入、シェアリングエコノミーの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>育児や介護を地域単位で支援する制度の整備(包括ケアなど)</li> <li>健康寿命延伸に向けた取組み</li> <li>(医薬品業者との連携、スポーツ振興、体調管理アプリ開発、健康プログラムを親子で学ぶ機会の提供、予防医療の知識普及)</li> <li>健康意識を助長するためのメーカーとの連携、介護保険制度とは異なる互助プラットフォームの設計(ソーシャルキャピタルポイント)</li> <li>健康予防事業参入への規制緩和</li> <li>介護保険適用されない健康な高齢者への顕彰</li> <li>元気な独居高齢者同士のルームシェアの推進</li> <li>空き家を活用した県外学生支援</li> <li>住宅改修(バリアフリー化)のネットワーク支援体制</li> <li>所有から共有へ富山型シェアリングエコノミーの推奨</li> <li>「のんびりやろう富山県」キャンペーン</li> <li>社会的ニーズの高い、多様な働き方への対応</li> </ul>



# 長期ビジョンストーリー

～ ○○の30年後のありたい姿と

それを実現するための施策・方向性 ～

- ・モノづくり集積都市として環日本海経済圏で確固たる地位を築いた富山県（清水委員）
- ・認知症が少なく社会的貢献度が高い人たちがいきいきと築く、寛容で豊かな富山県（藤井委員）
- ・くすり産業を基盤とした、人々との絆・多様性が尊重される精神的満足度が高い富山県（中林委員）
- ・強みを生かして成長を続ける富山県（田村委員）
- ・シニア世代、女性がいいきき輝ける富山県（田中委員）
- ・女性の労働力の引上げで潜在成長率を維持した富山県（大屋委員）
- ・Amazing Days(そこにあるのは、富山でしか体感できない時間)（向井委員）
- ・国際色豊かでIT技術を使い、ゆとりのある人であふれる富山県（野村委員）
- ・強みを活かし、弱みを克服することで世界中から成功モデル都市として注目を集めるTOYAMA（盤若委員）
- ・「縁・運・恩を感じ、家族のように助け合いの精神が根強い富山の精神風土によって自然との共存ができる社会」「裏勝りな県をお国自慢できる県民」「文化人や目利き人がハマってしまう県」「ナンバーワンじゃなくてオンリーワンな部分を誇れる県」（松井委員）

1

富山県長期ビジョンストーリー

## [清水克洋]の30年後のありたい姿

### 【モノづくり集積都市として環日本海経済圏で確固たる地位を築いた富山県】

私は現在67歳。富山県でモノづくりに携わるようになってすでに40年余りが経過した。富山空港からはアジアの国々へ直行便が就航しており、その一部には国産初のジェット旅客機として1000機以上製造されたMRJの後継機種も運用されている。富山で製造された製品の販路開拓・販路拡大を狙って、ほぼ毎週のように富山空港から海外へ出張している。



「くすりの富山」として医薬品出荷量は自社製造および委託製造を含め国内では断トツのトップ、アジアでも指折りの医薬品製造都市としての地位を確立した富山県。県内には原料やパッケージなどの主資材をつくる会社も多数存在すると同時に、打錠機をはじめとする医薬品製造用の設備などの副資材をつくる会社も育成されて、まさに「くすりの一大城下町」として強みを発揮している。また、そのような地の利に価値を見出した海外の大手医薬品メーカーも工場進出を果たした。



金属加工においては2010年代には最もウエイトの高かった自動車産業から脱却を果たし、航空宇宙、エネルギー、医療などへの参入を果たした県内中小企業がネットワークを構築し、個々の強みを生かしお互いを補完しながら営業活動を展開している。他県においてはモノづくり人財の不足が続き事業の継続が困難となった中小企業が多く存在する中で、富山県においては2010年に始めたモノづくり人財育成事業によって優秀な人財の採用に全く苦労することはない。

東京大学と富山大学との共同研究によって進めてきた宇宙線研究は大きな成果を見せ、多数のノーベル賞受賞者を輩出した。そんな研究者たちが多数住居を構え、またそこで使用する研究設備などを製造する富山県はまさに宇宙研究の県としても全国的に有名になった。

#### 経済

- 海外医薬品製造業の集積を図るための企業立地助成制度の創設
- 政府系医薬品関連機関の継続的誘致活動
- 県内事業者への発注金額による減税等の検討
- モノづくり中小企業ネットワーク構築のための支援

#### 文化

- 富山県をイメージしてもらうための国内外へのブランディング（Ex.健康、富山＝宇宙など）

#### 人づくり

- 富山県ならではのキャリア教育の推進（モノづくり教育）
- 富山のモノづくりに働きたくなるドラマの自主制作を通じた全国PR
- モノづくり人財育成事業

2



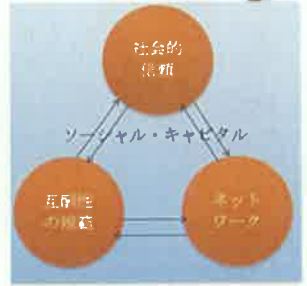
## [藤井大輔]の30年後のありたい姿

### 【認知症が少なく社会的貢献度が高い人たちがいきいきと築く、寛容で豊かな富山県】

私は現在73歳。富山県内の65歳以上高齢者率は40%に迫る勢いだが、そのうち認知症を発症している人は5%を切っている。30年前は15%を超えた大きなニュースになっていたが、早期発見のMCI検診および保健師・看護師による「脳と体の健康モニタリング」が40代以上を対象に定期的に実施されたこと、予防医学・予防サプリメントの発達により県内の健康寿命は80歳へと延伸した。病院には「なにかが起ってから」行くのではなく、「なにかが起る前に」行くことが当たり前となり、慢性期の医療費は2010年に比べ1/2にまで削減された。



要介護認定を受けなければ利用できなかった介護保険だが、むしろ要介護認定を受けていない65歳以上高齢者への特典が大ききひろがり「認定を受けない方がお得な生活」ができるようになっている。いまや携帯電話もネットの通信費も車の維持費すら、私はほとんど無料で使える。民間事業者が、マーケットの大半を占める高齢者の中でも、自律・自立している高齢者向けのマーケティングを重視するようになったためだ。脳健康と体健康の測定値に加え、社会的な貢献度に応じたソーシャルキャピタルポイント（SCP）が多い人ほど、お得に生活ができるようになっている。おかげさまで、私のSCPランクはダイヤモンドメンバーだ。これを維持するために、今年も自身の健康増進と精力的な地域のネットワーク活動・郷土文化の継承をしっかりとやらなければ。現金だと思われるかもしれないが、やはり奉仕の心だけではやる気は継続できない。富山県は日本の中でも、ソーシャルキャピタルポイント保有数が最も多く、早くから健康予防事業参入への規制緩和、豊かな郷土資源（産業・自然・文化）の再定義と整備、教育投資を行ったからだとされている。おかげで富山の水循環食文化はヘルスクエアードとして世界的ブランドとなり、TOYAMAは「社会貢献度の高い人が寛容で豊かに暮らすエリア」の代名詞となっている。



私は富山を拠点にしながら、東京、ホーチミン、ナポリにシェアハウスを持っている。今は芥川賞を本気で目指して小説のプロットを作っていると。テーマは「喪失と再生」「平等と不平等」。いろんな場所に移動・移住し人間の本质に触れ、70代にしてようやく納得できる小説が書けそうな気がする。

#### 経済

- 健康予防事業参入への規制緩和
- 介護保険制度とは異なる互助プラットフォームの設計（例：ソーシャルキャピタルポイント）
- 地域ネットワーク活性および効率化、ITC化へのベンチャー起業支援
- グローバル発信のためのデザインセンター強化
- ヘルスクエア型観光の推進
- 子育て女性・高齢者の就労機会を増やす

#### 文化

- 地域文化（地元愛）の振興・継承推進
- グローバル発信のためデザインセンター強化
- 伝統工芸・文化と若い人をつなぐ交流型コンテンツの推進
- 水循環食文化のブランド化（兼業農家率、水田率一位の支援、立山連峰と富山湾の新たな魅力創出など）

#### 人づくり

- グローバル&ローカルの両輪な人材教育
- 認知症予防、予防医学薬学のスペシャリスト人材を県内大学・企業に集積
- 富山の郷土資源を学ぶカリキュラムの強化
- 富山県ならではのキャリア教育、地元で働きたくなるマインド作り

## [中林 研一]の30年後のありたい姿

### 【くすり産業を基盤とした、人々との絆・多様性が尊重される精神的満足度が高い富山県】

私は現在62歳。定年まで勤めた会社に週3日ほどの手伝いに行くほかは、もっぱら孫の面倒を看るのがいまの生活スタイルであり、孫の笑顔が私自身の大きな活力となっている。私が子育て世代であった30年前にはなかった全天候型のアスレチック施設など、荒天時でも子供が全力で走り回れる施設が増え、大変ありがたい。



思えば、ハンディキャップを抱えた人間であっても、社会の一員として認められ自律した社会生活を送れることは、なんて素晴らしいことだろう。わが子がハンディキャップを抱えていると知った時、その将来を案じたものだ。しかしながら、わが子が希望の職に就き、私が孫と接することができるのも（わが子の努力もさることながら）、富山県全体として、人々との絆を重んじ、多様性を許容し尊重する風土が確立されたことが大きい。この風土は、幼少期から富山型教育として、通常の学業に加え、人との絆や多様性尊重を重要視し、様々なキャリア教育や郷土愛醸成を充実させたことにより育まれた。おかげで、育児・介護の地域包括ケア制度も軌道に乗っている。



とはいえ、教育を充実させるには少なくない投資が不可欠となるが、富山県では、「くすり王国＝富山」の再構築が投資を可能とさせた。県有財産の積極的活用や、絆や多様性を尊重する県民性もあり、30年前から推進された医薬品関連の政府機関や高度な民間研究施設の誘致、薬学教育の強化といった産官学一体となった取り組みが功を奏し、くすり関連産業が更に発展。県の税収は大幅に増え、この教育プログラムも含め、高校教育までが無償で提供されるに至った。また、県民の所得も全国トップレベルを維持している。

今では、富山が「豊かな心を持った人が集まり、精神的に満たされ充実した日々を過ごせる地域」として世界的に認知され、人間の内面をも高める教育環境・手厚い子育て支援も全国的な評価は高く、人口の移動均衡が達成されてずいぶん久しい。勿論、ヘルスクエア集積地として、世界的拠点となっていることはいうまでもない。

私自身、70歳を見据えやりたいことがある。親や祖父母が、子や孫に形見として渡せるようなモノを扱う店を開くことだ。この富山で家族全員が人とのつながりの中で生かされ育まれてきたことへの感謝である。

人生の総仕上げ。唯一無二の故郷で、大切な人々との絆を感じ、日々を過ごすことは何ものにも代えがたい。

#### 経済

- 高齢者就労促進のための環境整備
- 社会的ニーズの高い多様な働き方への対応
- 自然環境を克服する子育て設備の充実
- くすり集積に向けた産官学の連携
- シニア層の起業支援
- 企業立地・人口移住促進のための県有財産の積極的活用
- 高校教育までの無償化

#### 文化

- 文化施設と子育て施設のドッキング⇒文化・伝統に触れる絶対的回数を増加
- 全天候型の文化・スポーツ施設などの整備
- 県内への移住促進につながる日本内外への文化的魅力発信

#### 人づくり

- 多様性を許容・尊重できる人づくり
- 富山の産業的強みを学び、活かす・結びつけるキャリア教育
- 地域に根差した育児介護支援制度の整備
- 薬学のスペシャリスト人材の集積
- 富山ならではの内面教育・郷土愛醸成への積極的投資

# [ 田村 朋之 ]の30年後のありたい姿

## 【強みを生かして成長を続ける富山県】

私は現在65歳。私の周りは、みんなお年寄りで、私はまだ年寄りのヒョッコのようなものだ。とはいえ、30年前の年寄りと、今の年寄りは比べるまでもない。大抵の人は75歳まで働いている。県が地域の医薬品製造業者と協力して進めてきた健康増進プログラムによって、みんな元気に過ごしているからだ。お蔭で、富山県の労働者人口は、全国で唯一、30年前を上回っている。

かく言う私も、まだ働いている。流石に第一線の営業は体力が持たないが、県と地域の有力企業が共同出資で設立したベンチャー育成機関のアドバイザーとして、開発された技術の売込や、資金調達（上場を含む）の支援（投出融資／資本集め）を行っている。ベンチャー育成機関によって、地場企業のオープン化が定着し、“儲かる技術”を見える化したことにより、最近では引っこ無しに相談が舞込む。忙しいとありがたい。うれしい悲鳴だ。そういえば、富山県での創業社数が廃業社数を上回って10年程経つか。地場の豊かな経済産業を背景にしており、他ではなかなかマネできない。

3人の娘は全員結婚し、孫もいる。みんな共働きだ。富山県内全域にWifi環境が整えられたので、育児中でお勤めできなくても、常に会社と繋がり、仕事はできている。それに、富山県が英語教育に力を入れたおかげで、海外とのコミュニケーションも達者だ。また、子供の数に応じて、交通機関や行政サービス、税金が安くなったり、貰えるお金が増えるので、むしろ子供がいる方が、経済的な生活が豊かになるらしく、まだ子供を作りたいようだ。富山県の出生率も、2045年に2.5になった。孫が増えるのは、大変うれしく思っている。良い世の中だ。

それにしても、「日本イチの高低差を味わう」を打ち出し、日帰り、雄山登山から富山湾深海を潜水するツアーは、スタートから20年たっても人気は衰えず、毎年500万人以上の観光客を呼び込んでいる。これが出来るまでは、富山は通過県だったが、今では金沢⇄富山は2泊が当たり前になっている。外国人も増え、伝統産業も脚光を浴び、観光振興自体も大きく盛り上がった。オンリーワンは、やはり強い。

妻は、はやく引退してゆっくりして欲しいらしい。でも、まだまだ。80歳までは頑張れる。でも、引退したら、海外旅行くらいには連れて行きたいかな。



### 経済

- 健康寿命延伸に向けた取組み  
→医薬品業者との連携／スポーツ振興  
体調管理アプリ等
- ベンチャー投資育成機関の設立  
→受け身ではなく、攻める組織／地場有力  
企業との協業
- IT環境整備
- 仕事と子育てを両立する世帯への支援拡大

### 文化

- 物理的に富山県にしかできないアトラクション  
の開発／資本投下／運用  
→“伝統産業”は大切な付加価値だが、それだけでは人は集まらない
- 地場PRにおける統一ブランドの創造  
→統一感によるイメージ向上
- 外国人への耐性強化  
→留学派遣・受入／案内標示

### 人づくり

- 英語教育／IT教育の充実
- 予防医療の知識普及
- 閉鎖的にならない、オープンな考えを持てる人材の育成  
→ディベート／議論の取入れ

# [ 田中 さゆり ]の30年後のありたい姿

## 【シニア世代、女性がいきいき輝ける富山県】

私は現在65歳。定年制が廃止され、仕事は現役。フルタイムで働いている。私の周りには70歳を超えて働いている者も多い。富山県は健康寿命延伸に向けた取り組みを推進しているため、富山県には元気な人がいっぱいだ。

私の娘は第一子を出産した後も仕事を継続しており、孫は保育所に行き始めた。いまとなっては、全国的に女性が働くことは当たり前で、中でも富山県は共働き率全国 No.1。出生率も2.5と高い。富山県は子供がいても仕事をしながらいきいき輝けるように、仕事と育児を両立するための支援制度が整っている。例えば、病児保育が併設されている保育所が当たり前で、安心して仕事ができるそうだ。お休みの日には、子供から高齢者まで楽しめる全天候型の文化・スポーツ施設を利用して、孫と娘と一緒に遊んでいる。そこで英語を無料で教わることができるのだ。富山県に観光で来られた外国の方が富山に魅了され、住み着いて講師となっている。保育所でも英語を週1回教わるらしく、ほぼ毎日英語を勉強している孫のほうが英語が堪能。富山県は海外からの観光産業を推進しているため、英語教育にかなり力を入れていることが関係しているらしい。この施設では、楽しく運動ができ、文化・教養を身に付けられるとあって大変人気の施設となっている。

また、富山版キッズニア（子供の就業体験）もできたので、そちらもよく利用している。富山県内の企業が協賛しており、その企業の就業体験ができるのだ。大盛況で、県内に3か所もできた。平日は仕事、休日は孫と外出で毎日が忙しいがとても充実した日々を過ごしている。65歳から70歳まではパート、70歳にはリタイアして主人と旅行を楽しみたい。



※キッズニア東京HPより

### 経済

- 子育て女性・高齢者の就労機会を増やす
- 仕事と子育てを両立する世帯への支援拡大

### 文化

- 文化施設と子育て施設のドッキング  
（文化・伝統に触れる絶対的回数の増加）
- 自然環境を克服する子育て設備の充実、  
全天候型の文化・スポーツ施設などの整備

### 人づくり

- 富山県ならではのキャリア教育の推進、地元で働きたくなるマインドづくり（モノづくり教育、生徒が興味関心のある職種人を招いたブース、仕事体験などのフォーラム開催など）
- 育児や介護を地域単位で支援する制度の整備
- 健康寿命延伸に向けた取組み



## [大屋 雅嗣]の30年後のありたい姿

### 【女性の労働力の引上げで潜在成長率を維持した富山県】

私は現在72歳。銀行を引退して数年が経ち、妻と趣味を楽しみながら孫の世話を生きがいとしている。見渡すと、富山県には若い世代の労働力人口が増加している。とりわけ女性の就業者が30年前を上回り生産年齢人口が増加している。富山は仕事と子育てが両立できる県として、すっかりイメージが定着した。育児や介護を地域単位で支援する整備が進み奏功したからだ。地域コミュニティの中で、私も地域の若者に支えられながら彼らの子どもをお世話しお互いが補完し合っている。

富山のモノづくりは進化を続け、医薬品分野では政府系機関の誘致に成功し産学官金連携が一気に加速した。薬学のトップクラス人材が集結し、「日本のパズル」と呼ばれるまで成長した。金属、機械、電子部品分野と共に富山の二次産業を依然支えている。

他県は今なお人口減少に歯止めが掛からず経済は危機的状況にあるが、富山県は人口減少に対し、女性の労働力人口を引き上げることで潜在成長率を維持しようとした。県は民間と共に「女性」の就業機会創出のため、三次産業を誘致することに注力した。県有財産などは本社として無償貸与され、都会の企業が移転してくれた。その結果、若い世代の女性がUターンし始めた。現在も、県内総生産は緩やかに増加している。

専門学校や大学も増え学生が集まり始めた。県の誘致活動で専門学校が開校し、県内の国公立、私立大学も産業構造と共に変化してきた。最近では女子学生を意識した学校、学部が増えている。これらの卒業生が、県内の三次産業へ就職し県外転出が減少しているようだ。私の孫たちも県内に進学し就職してくれた。富山の産業の強みを学び、活かす・結びつけるキャリア教育も効果があったようだ。

女性の増加が若い世帯の増加に繋がり子どもを産む数は増えてきたようだ。私も多くの孫に囲まれて幸せな日々を送っている。孫を連れて、近所にできた商業・娯楽施設に出かけたり、伝統文化の魅力を体感できる場所に行ったら、富山に生まれ、富山で働き、富山で暮らして良かったとしみじみと思いを巡らせる。



#### 経済

- ▶ 女性の就業機会創出のため、三次産業の誘致
- ▶ 子育て女性の就労機会を増やす
- ▶ 産業構造に合わせ学校・学部の新設や拡充
- ▶ 企業立地、人口移住のため県有財産の活用
- ▶ くすり集積に向けた産学官金連携、政府系機関の連携
- ▶ 薬学トップクラス人材の集積

#### 文化

- 県民が伝統文化を身近に感じられる環境整備
- 若者が魅力を感じる商業・娯楽施設の創出

#### 人づくり

- 育児や介護を地域単位で支援する制度の整備
- 富山の産業的強みを学び・活かす・結びつけるキャリア教育

## [ 盤若 洋平 ]の30年後のありたい姿

### 【強みを活かし、弱みを克服することで世界中から成功モデル都市として注目を集めるTOYAMA】

私は現在67歳。生産年齢が数十年前に再定義され、まだまだ現役で働いている。これまでの経験を活かし、シニア起業をする同世代の仲間もいるが、私は現在勤務している清涼飲料の製造・販売を生業とする会社で最後までリフレッシュメントの提供を通じて社会に価値を提供し続けたい。

2人の娘は結婚し、子育て・女性支援が充実している富山で私達夫婦のそばに住んでいる。妻は孫の世話をする一方で、70歳を目前に起業し、空き家を活用した伝統工芸コミュニティで世界中の産業と富山の伝統工芸のビジネスマッチングを行っている。

もともと「TOYAMA」がもつモノづくりの集積都市としての強みに加え、30年前は弱みであった文化力の発信、産業観光の誘致、伝統工芸継承に向けた人材育成のインフラ整備が奏功し、弱みを克服した。今や、世界中からモノづくりの聖地をして崇められ、移住者や外国留学生が増加し定住人口の減少にも歯止めがかかり、産業観光人口も増加、流入人口も増加した。

また、日本一労働生産性が高い『TOYAMA』となり社会福祉も充実し都市からのUターンも増加した。グローバル化が進む中、約30年前に実施された『TOYAMA』の強みをいかに生かしていくか？弱みをいかに克服して行くか？という官民が一体となった施策であるローカルブランディングの徹底により都市部に負けない人材が集まるようになった。

約30年前に新幹線逆効果と言われた高岡駅前周辺にも昭和の賑わいが戻り、空き家も伝統工芸や、モノづくりに携わる職人や留学生、産業観光用スペースとして幅広く活用され、賑わいが戻っている。



2016年に発行されたミシュランガイド富山版の効果によって、食においても世界中から注目を集めている。働き甲斐があり、住み心地が良いTOYAMAはまさに、世界中のモデルであり、注目を集めている。やはり私は80歳までTOYAMAに集まる人々に清涼飲料の提供を通じて価値を提供し続けたいと決意した。

#### 経済

- 生産年齢の再定義 80歳まで
- 高齢者の生産性と消費力維持に向けた制度制定
- シニア起業支援
- シニア層の終了促進に向けたインフラ整備
- 子育てにお金がかからない仕組みの構築

#### 文化

- ローカルブランディング施策
- 伝統工芸の技と知の拠点整備
- 文化コンテンツの世界への配信
- 産業観光と伝統文化、食文化を組み込んだツアー企画の充実

#### 人づくり

- 富山の強みを活かす、弱みを克服するためのカリキュラム強化
- 企業や社会が求める労働力、暗黙知を活かすことが出来る企業や社会との人材マッチング

## [向井 真吾]の30年後のありたい姿

### 【Amazing Days(そこにあるのは、富山でしか体感できない時間)】

私は現在60歳、自分が関わった経済・文化長期ビジョン懇話会閉会から30年、富山県は日本の人口減少が叫ばれていた時期から長期ビジョンに基づいて一貫した政策を実行していった。県のみならず国、地域企業、そして市民と一体となった経済・文化・人づくり。私も一市民として、そしてビジネスを通じて30年関わり続けてきた。その政策の結果が見事に実り、日本国内では物心両面で幸福度指数No.1に30年連続で選ばれる県になり、日本のみならず、世界から「Amazing TOYAMA」(トヤマの奇跡)と称されるほどの地域に成長した。災害に強く、首都圏やアジア地域にアクセスできる地理的優位、勤勉・継続・絆を大切に富山県民の長所を活かし「ものづくりNo.1」としての地位を確立。世界中から発注や問い合わせが殺到している某企業から、人員採用や追加設備投資について私に相談が舞い込み、今日も信頼するコンサルタントを紹介したばかりだ。高品質なもののづくりの技術を求め、世界中のクリエイター達が富山に集まっており、私の住む富山市の総曲輪商店街を歩けば、県内外のみならず海外からの定住・半定住者も多くショッピングを楽しんでいる。コンパクトシテ化された2都市【次世代環境未来都市(富山市)と歴史文化継承都市(高岡市)】を中心として県全体に行政サービスは万遍なく行き届きいており、春にはゴミ一つない環水公園に、90歳を超えて仕事や習い事を楽しんでいる両親と共に、私の孫も含めて家族総出で花見に行くのが毎年の楽しみとなっている。今年の夏には、立山町に購入したロッジに世界中の友人たちが集まった。登山シーズンにはグループで登山をし、夜空に浮かぶ星々と雄大な頂という自然の神秘を山小屋で一夜を過ごしながら身体一杯に感じてきた。富山の自然に惹かれて定住を決めた人たちも多く、東京で住んでいた私の友人の一人も、夫婦そろって20年前に引っ越し、富山で養育した子供2人は、若手注目の研究者・工芸作家として今では世界に羽ばたいている。雪の積もった今日の夜、ネット会議で直接接することの無い仕事仲間のJamesとJoseが、バカンスを兼ね家族で富山に訪れてくれた。いくら技術革新が進んでも新鮮で美味しい海の幸・山の幸、そして食べ方を知っている富山の職人の手にかかった料理の数々。これはここでしか体感できない時間。みんなで舌鼓を打ちながら、冷やの地酒を一口頂き、隣から同じく60歳を超えた奥さんにお酌を。二人で健やかで居られることに感謝しながら。



#### 経済

- ①世界発信(ブランディング・マーケティング)  
(地域・企業・商品サービス・人等)
- ②人が集まるプラットフォームの整備  
(リアル・非リアル)
- ③ものづくりに関連する行政面でのバックアップ  
(税務・法律・行政サービス・インフラ整備)

#### 文化

- ①県版コンパクトシティの推進と整備  
富山市:次世代循環型環境都市  
高岡市:職人町・歴史文化の継承都市  
周辺地域:主要2都市の衛星地域として、自然環境(四季)、地域性を活かした街づくり

#### 人づくり

- ①地域コミュニティ形成の推進  
(空き家対策、補助政策、行政サービス)
- ②多様性を受け入れるための教育制度  
(日本人としての価値観形成、歴史教育)
- ③外国語の取得推進  
(英語・中国語、海外居住者の優遇制度)

## [野村和歌子]の30年後のありたい姿

### 【国際色豊かでIT技術を使い、ゆとりのある人であふれる富山県】

私は現在61歳。20代の時に自分で起業した会社を人にゆずり、70歳近くなった夫と、夫婦で仲良く海外旅行に出かけたり国内旅行を満喫して過ごしている。里親制度で親子になった子供3人と、実の子2人もすでに大人になった。小さい時からホームページやアプリ開発の習い事をさせていたおかげで、富山のものづくりの会社で正社員として働きながらも自分でITの会社をもっている者がいたり、英語教育に力をいれていたおかげで、海外で通訳の仕事をしている者もいる。海外に住みながら、外国語とITを使い、富山の観光産業などにも携われる事が出来ている者もいる。みんな、2つか3つビジネスを持っている。自分の身体を使って働けなくなってもお金がまわるようにと、子育てをしてきたおかげだ。だから年に2回は、家族全員そろって海外へ2週間の旅行に行く事が出来ている。それが私たち夫婦の楽しみになっている。現在私たちは、砺波市の散居村にある、広い家を買取り、独身の友達や、高齢になり、夫婦だけでは住めなくなった人達と家をシェアしながら暮らしている。そのようなシェアハウスを全国に何件も持ち、夫婦で会社をおこした。それを一つの収入になっている。孤独死が減る事を望む。独立した部屋を持ち、リビングで共有し合う。私たちは納屋をリフォームし、ちょっとオシャレな空間に仕立てた。住んでいる人達は元気なので、犬を飼ったり猫を飼ったりと、余暇を使って好きな時間を楽しんでいる。何よりも教育が大事だという私たちの方針で、海外から優秀な外国語講師を招き、子供たちへの英語教育や、アプリを作ったりHPを作るレッスンも運営するようになった。そして何より、お金がどのように人を幸せにしていくのなどといった、お金の力なども教えている。そのような人達を育てて送り出す事が、将来の富山県を更に活性化し、世界を広く持てる視野を作る事で自殺率も減ると信じている。私たち夫婦が生きていた証や感謝を地域還元したいとの思いで、富山県や、市などに寄付も行っている。



#### 経済

- 高岡のものづくり産業の発展
- 小さい頃から経済を教育させる
- 地域のシェア化
- 自殺率の低下
- 身体を使わなくても仕事出来る環境を整える

#### 文化

- グローバル発信のため英語教育強化
- 伝統工芸・海外を結ぶ若者の強化
- 豊かな人が増える事で、世界の富裕層が遊びに来る。(仕事ばかりしている県民性の場所に富裕層は来ない)

#### 人づくり

- グローバル&ローカルどちらも担える人材教育
- 孤独死をなくす
- 貧困層を作らない。



## 【松井委員からのご意見】

「－ 縁・運・恩 － を感じ、家族のように助け合いの精神が根強い富山の精神風土によって自然との共存ができる社会を築いている」  
→国会でも介護士や保育士の給料を上げるべきと言われていますが、給料を上げたところで働くことへの喜びはお金の価値としか感じられなくなるのではないのでしょうか？

昔は丁稚奉公や師弟関係があり、ご恩や情を重んじて働くことでお金以外にも価値を見出していたと感じます。御恩や誇り、思いやりがあったら、きっと特許や優先席など必要のない世の中になるのではないのでしょうか？そして、感じたご恩をお返しすることを富山の大人たちは望んでおらず、その後伝える「恩送り」を望んでいるはず。ご恩が次の世代次の世代に巡って行くことで毎日がありたく幸せを感じられるようになると思います。

また、富山のうつりゆく自然の情景を感じながら、おじいちゃん、おばあちゃんと育つと自然と想像力が豊かになり、相手の気持ちも想像できる思いやり溢れた子が育つと感じます。ご近所付き合いは少し面倒な時もあるかもしれませんが、みんなで子供を育てていくという環境は大切です。

30年後もご先祖さま、周りの方に感謝し、仕事でもプライベートでももち無もたれずで、県外や国に頼らず県民がみんなで助け合って生きていける社会となっています。

「裏勝りな県をお国自慢できる県民になっている」

奢侈禁止令が行われていた際、4 8 茶 1 0 0 鼠という色の例えがあったほど、世の中の表の生地には茶色や灰色の世界が広がっていました。その時の市民の楽しみは、表に見えない裏地でいかにおしゃれを競うか。襦袢や羽織の裏を綺麗な色にしたり、柄を描いたり。男性は女性の袖や裾からチラリと見える襦袢でその人のセンスや教養を見極めていたと言われています。ただ、見極めるには男性側にも教養や知識、センスがないと見極められません。このお話を聞いた時、まさに富山は“裏勝りな県”だと感じました。表に見えるのは目立つ色ではなく、白と茶色など地味な世界が多いですが、目利き人や分かる人には響くものがゴロゴロと転がっているのです。

「文化人や目利き人がハマってしまう県」

京都の俵屋はあらゆる文化人やスティーブジョブズも定宿にしていた宿ですが、HPや広告は一切切っています。ホンモノが日常に使われていて、分かる人には分かるのです。俵屋の成功は上質なファンが多く、憧れの宿になっているということにあるのではと思います。

富山はまさに宿だと俵屋に匹敵するくらいでないかと感じます。富山はホンモノが残っている県。これはかなりの強みになり、“響く人に響く”それで良いのだと思います。ただ、この素晴らしいは“当たり前”になってしまっているので、“素晴らしい”と言って継承してくれる人が居ないのが弱点だと感じます。世界史も大事ですが、今のうちに富山の自然、建築、景観、偉人が学べる(大人も学べる)教育に力を入れれば、30年後にはみんなが無いものねだりではなく、あるものを大事にし、富山のお国自慢ができる県になっています。文化財のプレートやグッドデザイン賞などのロゴマークに惑わされない目利き力のある人材が富山で増え、もっと富山に誇りをもってもらえるはず。

「ナンバーワンじゃなくてオンリーワンな部分を誇れる県に」